

## 1. 概要

ペロン党内のドウアルデ派とメネム派との抗争は、司法が、党内予備選挙を実施せず、ドウアルデ派が支持するキルチネル候補、メネム候補、ロドリゲス・サア候補の三候補が大統領選挙に直接出馬することを認めたことで一段落つき、同党が歴史上初めて事実上分裂した状態で大統領選挙に挑むこととなった。他方、急進党は党内予備選挙をやり直して大統領候補を選出し、共和国平等党のカリオ候補は、副大統領候補を指名するなど、ロペス・ムルフィー候補を含め大統領選挙に向けた主要大統領候補の体勢は整った。

外交面では、イラク問題に関し、武力行使には参加せず人道的支援のみ行う用意があるとの亜政府の立場を繰り返し強調した。他方、イスラエル共済会館（AMIA）爆破事件に関連して、当地検察当局が、当時の在亜イラン大使等22名の逮捕申請を担当判事に行ったことを受けて、イラン政府が痛烈に批判するなど外交問題に発展する恐れが高まった。

## 2. 内政

### (1) 大統領選挙

(イ) 6日、セルヴィニ・デ・クブリア連邦判事は、大統領選挙を4月27日に実施することを承認した。右判決に伴い、大統領選挙の前倒しの違憲性を訴えていた訴訟は、却下された。

(ロ) 19日、モネル・サンス弁護士は、セルヴィニ・デ・クブリア連邦判事に対し、三選問題につき、メネム候補には大統領選挙の出馬資格はないとの訴えをおこした。

### (2) 大統領選挙に向けての各政党の動向

#### (イ) ペロン党

(a) 6日、セルヴィニ・デ・クブリア連邦判事は、ドウアルデ派とメネム派を呼び、党内予備選挙の実施等に関し党内対立の調停を試みたが、両派とも主張を一步も譲らず失敗に終わった。

(b) 11日、セルヴィニ・デ・クブリア連邦判事は、1月24日のペロン党大会で、大統領候補を選出するための党内予備選挙実施を中止し、同党から3名の候補者が出馬することを決定したことについて、右決定は違法的に行われたものであるが、現段階で党内予備選挙を実施するとした場合、4月27日の大統領選挙日程を変更せざるを得なくなるとして認める判決を下した。その他に、党大会において3月1日までに選挙裁判所が3名の候補者登録を認めない場合には、州知事等から構成される政治行動委員会がペロン党候補者1名を指名すると決定したことに対し、本来党内予備選挙に出馬資格のある候補者を、物理的理由により党内予備選挙が実施されないことになったために、大統領選挙から排除することの不合理性を指摘し、党が候補者1名を指名することはできないとした。

(c) 党の紋章の使用に関し、21日、セルヴィニ・デ・クブリア連邦判事は、有権者が混乱することを理由に挙げ、3候補いずれも使用することはできないとの判決を下した。

(d) 25日、キルチネル大統領候補は、ブエノスアイレス市内で政治集会を開き、正式にダニエル・シオリ観光・スポーツ長官を副大統領候補に指名した。シオリは、集会において、「過去に戻るべきではない。最高の10年間は過去ではなく、これからの10年間である」と暗にメネム政権を批判する発言を行う一方で、自分は、現在のペロン党の分裂状態を解決するために、ここにいるのであると協調の姿勢を強調した。同政治集会には、キルチネル候補夫人であるクリスティーナ・キルチネル上院議員及びシオリ夫人をはじめ、ドゥアルデ大統領夫人、ソラ・ブエノスアイレス州知事、アタナソフ首相、フェルナンデス生産相、パンプーロ大統領府長官、ヒオハ上院暫定議長、カマーニョ下院議長等、ドゥアルデ政権の閣僚及びブエノスアイレス州勢力の要人が参加した。

(e) 25日は、大統領選挙における政党間の選挙同盟の申請登録締切日にあたり、ペロン党の名前で出馬できなくなったキルチネル候補、メネム候補、ロドリゲス・サア候補は、それぞれ他党と組むなど新たな名称を申請した。

(i) キルチネル候補：勝利のための同盟

(ii) メネム候補：忠誠同盟

(iii) ロドリゲス・サア候補：全国民衆同盟

(ロ) 急進党

16日、急進党の党内予備選挙に関し、チャコ州、フォルモッサ州及びサンフアン州の三つの選挙区においてやり直し選挙が実施され、モロウ候補がテラーニョ候補を大差で破り、次期大統領選挙の急進党候補に選出された。勝利したモロウ候補は、今回の勝利が急進党の再建の始まりであるとし、党の団結を主張するとともに、一連の党内のスキャンダルに関し国民に謝罪した。

(ハ) 共和国平等党 (ARI)

26日、カリオ大統領候補は、メンドサ州の地方政党である民主党のグスタボ・グティエレス下院議員を副大統領候補に指名した。カリオ候補は、記者会見において、決選投票ではメネムと戦うことを確信していると述べた。

(ニ) 連邦再建運動

(a) 13日、ロペス・ムルフィー大統領候補は、シカゴを訪れ、母校であるシカゴ大学にて大学関係者と会談した。

(b) 26日、ロペス・ムルフィー大統領候補は、モンテビデオを訪れ、バジェ大統領をはじめ議員、企業家等と会談した。

(3) 世論調査

IPSO社が、21日から25日の日程で全国主要都市にて18歳以上の男女1200人を対象に、世論調査を行った（正誤率：95%プラス・マイナス2.8ポイント）。

(イ) 大統領選挙の支持率

キルチネル・サンタクルス州知事（ペロン党－勝利のための同盟、19.5%）

ロドリゲス・サア前大統領（ペロン党－全国民衆同盟、17.3%）

メネム元大統領（ペロン党－忠誠同盟、15.6%）

カリオ下院議員（共和国平等党、15.3%）

ロペス・ムルフィー元経済相（連邦再建運動、10.3%）

ブラボ下院議員（社会党、2.3%）

その他（2.6%）、白票及び誰もいない（9.8%）、不明及び無回答（7.3%）

（ロ）「誰が大統領選挙で勝つと思いますか」

メネム（41.9%）、キルチネル（17.9%）、ロドリゲス・サア（8.6%）、カリオ（2.7%）、ロペス・ムルフィー（1.0%）、その他（3.6%）、不明及び無回答（24.3%）

#### （4）地方の動向

##### （イ）カタマルカ州

（a）11日、州選挙裁判所は、バリオヌエボ候補（ペロン党、上院議員）は立候補するための要件（4年間居住）を満たしていないとして、ペロン党に対して代替候補を選出するよう判決を下したが、14日、州連邦裁判所が、右判決を無効とする判決を下した。しかし、15日には、州選挙裁判所が、州連邦裁判所には本件の管轄権はないとして同裁判所の判決を棄却した。

（b）最高裁判所は、バリオヌエボ候補の出馬要件に関し、最高裁で審議するにはなじまないとして地裁で行うよう勧告した。

（c）27日は、3月2日に予定している州知事選挙の候補者登録締切日であったが、バリオヌエボ候補は結局登録できず、有権者に投票を棄権するよう訴えた。

##### （ロ）ブエノスアイレス州

州知事選挙に関し、20日、ペロン党有力候補である現職のソラ州知事は、ジャネタツシオ教育相を（選挙でコンビを組む）副州知事候補に指名した。

##### （ハ）サンルイス州

23日、ペロン党の州知事候補を選出する党内予備選挙が行われ、アドルフォ・ロドリゲス・サア大統領候補の弟であるアルベルト・ロドリゲス・サア元上院議員が選ばれた。

#### （5）国会

（イ）10日付け官報にて、10日より28日の日程で特別国会を召集し、48法案を審議する旨掲載された。

（ロ）27日、上院は、28日までの任期であったヒオハ上院暫定議長の任期延長を承認した。

#### （6）抗議運動

（イ）3日、強硬派に属するMTR及びMIJD等の全国ピケテロー・グループは、更なる社会保障政策及び失業者の雇用を求めて全国の37の民間企業（Repsol、Shell、Coca-Cola、Firestone、Volkswagen等）の工場にアクセスする道路を封鎖した。

（ロ）5日、強硬派のMIJDは、約4時間に亘って、更なる社会政策を求めてブエノスアイ

レス市へアクセスするプエイレドン橋やノリア橋等を封鎖した。

(ハ) 18日、強硬派に属するMTLは、社会保障政策の充実を求めてブエノスアイレス市ーラプラタ間の高速道路など2箇所の料金所にて、料金の徴収を妨害し、車両を無料で通過させる運動を展開した。

(ニ) 19日、強硬派の全国ピケテロ・グループは、更なる社会保障政策を求めて社会開発省を起点としてデモ行進を行う予定であったが、治安当局による阻止により10時間に亘って同省周辺に留まった。

#### (7) テロ

21日、1994年に当地で発生したイスラエル共済会館（AMIA）爆破事件に関連し、検察当局が、本件担当のガレアノ連邦判事に対し、当時の当地イラン大使を含めた大使館員等22名に対する逮捕要求の要請を行った。

#### (8) 政府内人事

19日、アルトゥロ・プリセリ州担当長官（内務省）が辞任し、27日、ネストル・アウアドが就任した。

### 3. 外交

#### (1) 米国

1日、米スペースシャトル・コロンビア号爆破事故を受けて、ドゥアルデ大統領は、アマデオ駐米亜大使を通じて、ブッシュ大統領に、コロンビア号の事故に深い悲しみを覚え、7名の宇宙飛行士の冥福を祈る旨哀悼の意を表明した。

#### (2) 伯

(イ) 3日から5日にかけて、アモリン外相が訪亜し、4日にドゥアルデ大統領及びルカウフ外相と会談した。ルカウフ外相との会談では、メルコスールとして政治と経済を含めた共通対外政策を採っていく方向性を提案する旨話し合い、FTAA交渉において亜と伯の二国間でウルグアイ、パラグアイをも含めた共通の品目リストを提出期限の15日に提出することを確認した。

(ロ) 19、20日、アマラル科学技術相が訪亜し、19日にドゥアルデ大統領、ルカウフ外相及びジャンエタッシオ教育相と会談し、両国の科学技術分野での協力を推進することを確認した。

#### (3) イラク問題

(イ) 5日、パウエル米国务長官が、国連安保理の外相級会合でイラクの決議不履行を示す機密情報を開示したことを受けて、ルカウフ外相は、訪問中のウルグアイにて、同長官の報告は、イラクの独裁者がイラク国民及び近隣諸国を攻撃しただけでなく、国連に嘘をついたことを示したものであると述べた。また、亜政府の立場を説明し、亜は戦争を避けるためイラクに対して大量破壊兵器を廃棄するよう求めるとした。

(ロ) 15日、ブエノスアイレス市内にて、当地米国大使館を最終地点としたイラク攻撃に反対するデモ行進が行われた。参加者は、子供や高齢者を含め推計5万人にのぼり、種々のプラカードを掲げ、歌、口笛、拍手などでイラクに対する武力行使の反対を訴えた。

(ハ) 27日、ルカウフ外相は、上院外交委員会にて、対イラク武力行使の亜政府の立場に関する詳細な説明を行い、亜はいかなる軍事行動にも参加しない点を明確にし、武力紛争が終結し、人道的支援の受け入れ可能な状態になって初めて、亜は人道的支援を行う旨述べた。

#### (4) イラン

(イ) イスラエル共済会館 (AMIA) 爆破事件に関して、亜検察当局が、当時の在亜イラン大使等の逮捕請求を連邦判事に行ったことを受けて、23日、イラン外務省報道官は、今回の逮捕要請は、シオニズム政権の性格を有するものであると痛烈に批判した。

(ロ) 25日、イラン外務省の米州局長は、在イラン亜臨時代理大使に対して、今回の逮捕要求に強く抗議した。これに対して、亜外務省は、司法の問題であるとしてコメントを避ける対応をとっている。

#### (5) ペルー

13日、亜司法当局は、IMFより派遣され亜に滞在していたバカ・カンポドニコ (フジモリ政権時の財務大臣) の身柄をペルー政府の汚職容疑の逮捕要請に応じ拘束した。15日、担当のカニコバ・コラル判事は、犯罪人引渡しに関する亜国内法の、容疑者が逃亡する可能性がある場合には仮釈放することを禁じた条項が違憲であるとした上で、カンポドニコの仮釈放を命じた。仮釈放にあたり、同氏は、25,000ペソの保釈金を支払った。但し、仮釈放後も同氏に対して依然として亜からの出国禁止等、様々な制限が付されている。

#### (6) ボリビア

3日、ルカウフ外相は、ボリビアを訪問し、サーベドラ・ボリビア外相及びメサ副大統領等政府要人と会談した。サーベドラ外相との会談後の共同宣言において、民主主義の擁護、国際テロリズムとの戦い及び農産品に対する先進国による保護主義の撤廃に関し共同歩調を取ってゆくことを確認した。

#### (7) エルサルバドル

11日から12日にかけて、ルカウフ外相は、エルサルバドルを訪問し、フローレス大統領を表敬した。同外相は、エルサルバドル政府及び国民に対し、同国の経済・社会面における進展、とりわけ、国連がエルサルバドルの和平合意履行の検証任務を終了したことに祝意を表した。また、ブリスエラ外相との会談では、二国間、地域間及び国際問題につき話し合われ、両国間の協力関係の更なる増進のため共同行動を推進する意思を確認したほか、コロンビア問題におけるテロ行為を強く非難し、コロンビア政府及び国民との連帯を改めて表明した。

(8) 要人来往

(イ) 来訪

4日 アモリン伯外相

14日 マヌエル・ロドリゲス秘外相

20日 アマラル伯科学技術相

(ロ) 往訪

3日 ルカウフ外相、サーベドラ外相と会談するためボリビアへ

5日 ルカウフ外相、メルコスール外相級会合に参加するためウルグアイへ

5-8日 ラバーニャ経済相、スノー米財務長官、ケーラーIMF専務理事、イグレシラスIDB総裁等を会談するため米国へ

8日 ルカウフ外相、パチェコ大統領と会談するためコスタリカへ

10、11日 ルカウフ外相、モスコソ大統領と会談し中米首脳会談にオブザーバーとして参加するためパナマへ

11、12日 ルカウフ外相、フローレス・エルサルバドル大統領と会談するためエルサルバドルへ

(9) 今後の主要日程

3月30日 ドゥアルデ大統領及びルカウフ外相はギリシャを訪問し、Stephanopoulos 大統領、Simitis 首相、Papandreu 外相と会談予定